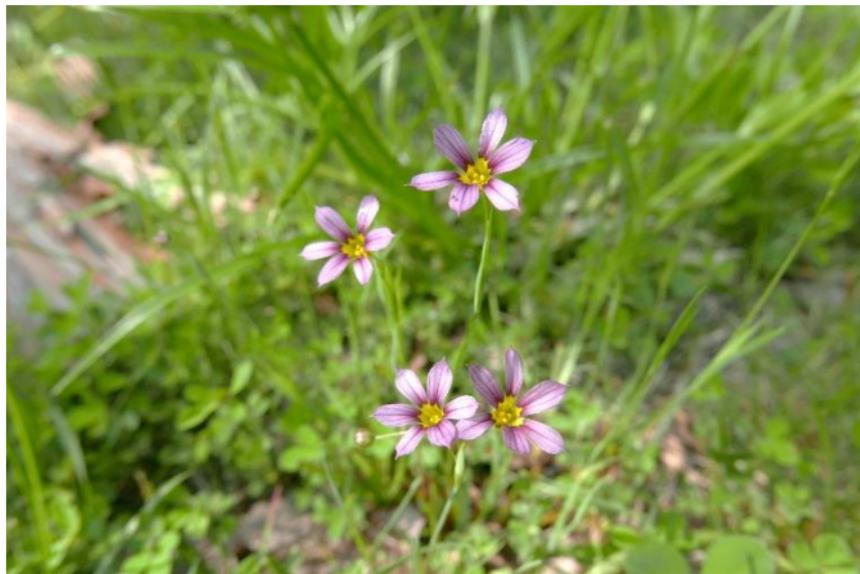


びわこ文化公園植物だより〔β 版〕

## ニワゼキショウのなかま アヤメ科

学名 *Sisyrinchium* spp. (spp. は複数種の意味)

・帰化植物、園内各所に生育



ニワゼキショウ

5月になりました。観光地やイベントに出かけるのもいいですが、何をしてもなく公園の芝生の上でゴロゴロするのも、この季節ならではの、ぜいたくな時間のすごしかたといえるでしょう。ところで、びわこ文化

公園の芝生の中に、日本のどんな図鑑を探してものっていない植物があるといったら、驚かれるでしょうか。新種というわけではないのですが、誰も名前のわからない植物が、いま公園内の芝生でたくさん花を咲かせています。それがニワゼキショウのなかまであるということまではわかっているのですが・・・。

はじめに、ふつうのニワゼキショウ(*Sisyrinchium rosulatum*、前ページ写真)は、北アメリカ原産の帰化植物です。高さ 10cm ほどの小さな体に、うす紫色の花をたくさん咲かせる、愛らしい植物です。花の中心部にある小さな3つの黄色いおしべ、花の下にある小さな緑色の子房(実になる部分)、それが大きくなってできるまんまるの実など、どこを見ても見飽きない植物です。

このニワゼキショウは少なくとも数十年来、関西の平地ではありふれた植物だったのですが、近年、急速に減っていつているように見えます。かわって増えてきたのが同じ属のオオニワゼキショウとセッカニワゼキショウです。これらも帰化植物です。

オオニワゼキショウはニワゼキショウより背が高く、ひよろひよろして見えます。花はニワゼキショウより一回り小さく、間のびした茎の先にまばらにつくので、咲いていてもニワゼキショウほどには目立ちません。花の色は薄い青紫で、涼しげです。ちょっとした木陰や水辺など、ニワゼキショウよりは湿ったところを好むようです。学名が長らくはっきりしなかったのですが、近年、*S. micranthum*であるとされました。



オオニワゼキショウ

3つ目の種、セッカニワゼキショウは、ニワゼキショウより小ぶりで、白くほっそりした花卉が印象的な種です。こちらは2010年刊行の『日本帰化植物写真図鑑第2巻』で紹介された新しい帰化植物ですが、学名がいまだにはっきりしません。和名のセッカは「雪花」で、白い花を六角形の雪の結晶に見立てたものです。

さて、びわこ文化公園の芝生の中で、今いちばんたくさん見られるニワゼキショウ属植物は、以上に紹介したニワゼキショウ・オオニワゼキショウ・セッカニワゼキショウのどれでもない、新顔の謎の種で、図鑑にもまだ載っていないものなのです。この謎の種は全体に小ぶりでセッカニワゼキショウに似ていますが、花が薄い紫色なので区別することができます。次のページで4種の花を比較してみました。

ニワゼキショウのなかまのふるさは南北アメリカ大陸です。この「謎の種」も、何らかの輸入物資に混じって、地球の反対側からやってきたのでしょうか？ ニワゼキショウのなかまの分類は現地でも非常に難しいとされていて、研究がまさに進行中です。そのなりゆ

きを注意深くフォローしなければ、「謎のニワゼキショウ属」の名前は決められません。日本の専門家たちにとっても、根気のいる仕事になりそうです。



びわこ文化公園でみられるニワゼキショウ属4種の花。  
左上:ニワゼキショウ、右上:オオニワゼキショウ、左下:  
セッカニワゼキショウ、右下:新顔の謎のニワゼキショウ属。

(龍谷大学農学部・三浦励一)